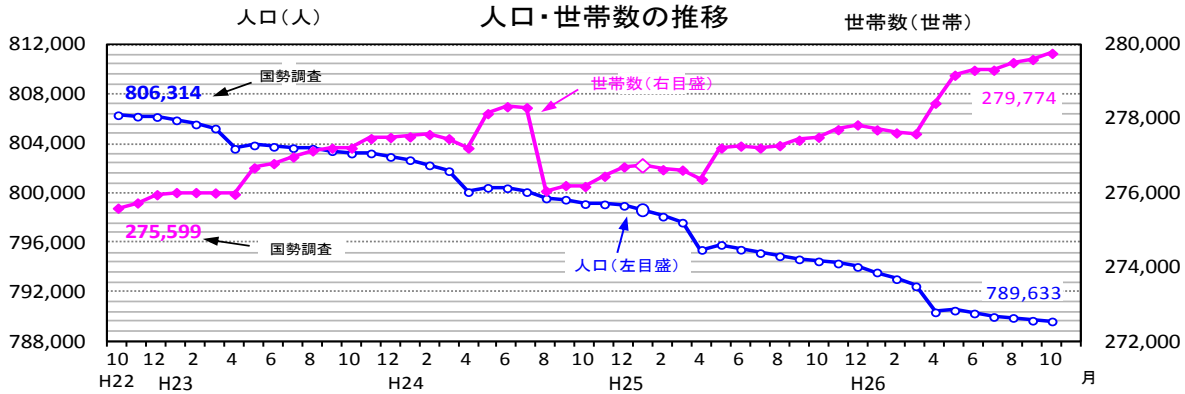


福井県月例統計指標

(平成26年11月)

1. 人口の動き

- 平成26年10月1日現在の福井県の推計人口は789,633人(男382,056人、女407,577人)で、9月中に59人減少した。(内訳:出生560人、死亡696人、転入958人、転出881人)
- 平成26年10月1日現在の福井県の世帯数は279,774世帯で、9月中に165世帯増加した。

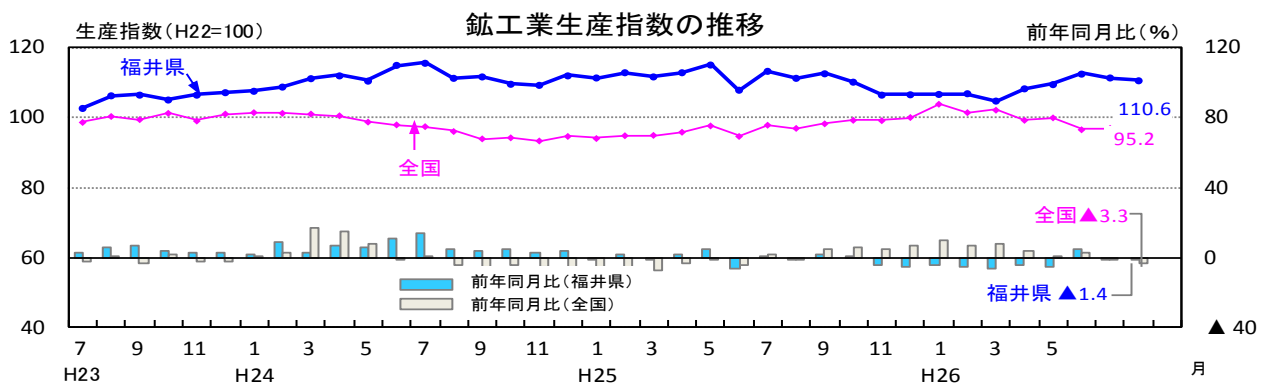


※「平成22年国勢調査(10月1日現在)」(確報値)に基づく推計人口および世帯数。

2. 経済指標の動き

(1) 生産

- 鉱工業生産指数(H22=100)(8月)は110.6(季節調整済)となり、2か月連続で低下した。前月比を業種別にみると、「電子部品・デバイス工業」「パルプ・紙・紙加工品工業」等7業種で上昇し、「化学工業」等15業種で低下し、全体で0.7%の低下となった。また、前年同月比は1.4%低下と2か月連続でマイナスとなった。
- 鉱工業出荷指数(同)(8月)は113.2(季節調整済)となり、2か月ぶりに低下した。
- 鉱工業在庫指数(同)(8月)は151.1(季節調整済)となり、2か月連続で低下した。



◎業種別動向

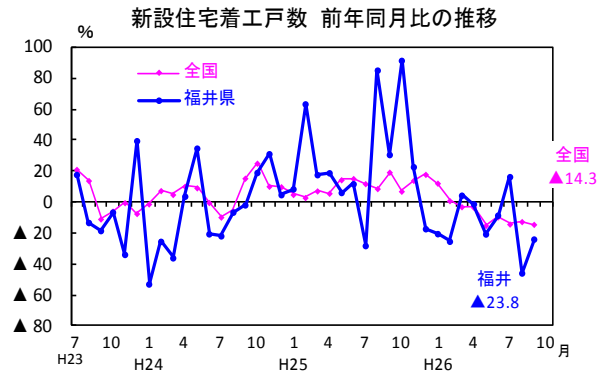
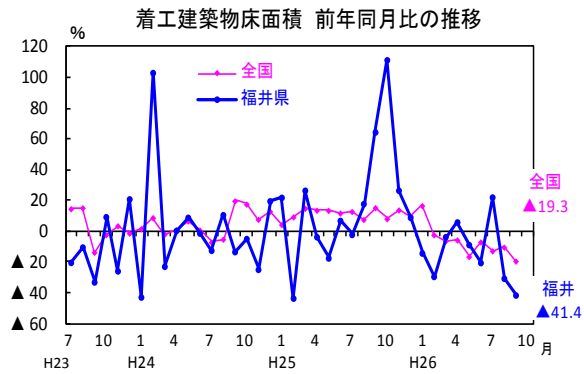
業種	業種	鉱工業					機械工業
		製造工業	電子部品・デバイス工業	化学工業	繊維工業		
ウ	エ	イ	ト				
季節調整済指数	H26年7月	10,000.0	9,987.8	1,970.9	1,848.7	1,947.7	3,362.5
	H26年8月	111.4	111.4	159.4	103.2	91.2	141.3
	前月比(%)	110.6	110.6	166.0	97.3	87.4	145.3
原指数	前月比(%)	▲0.7	▲0.7	4.1	▲5.7	▲4.2	2.8
	H25年8月	106.0	105.9	154.1	97.1	93.0	136.9
	H26年8月	104.5	104.5	162.9	92.7	84.8	139.5
	前年同月比(%)	▲1.4	▲1.3	5.7	▲4.5	▲8.8	1.9

※機械工業 = 一般機械工業 + 電子部品・デバイス工業 + 電気機械工業 + 輸送機械工業

※一般機械工業 = はん用機械工業 + 生産用機械工業 + 業務用機械工業

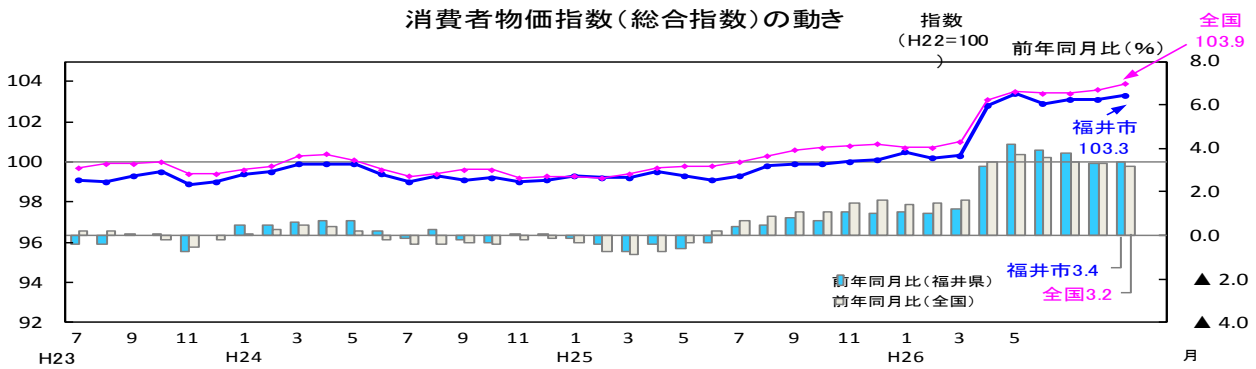
(2) 建設

- ・ 公共工事請負契約額（8月）は129億円となり、前年同月比23.6%減となった。
- ・ 着工建築物床面積（9月）は52.7千㎡となり、前年同月比41.4%減となった。
- ・ 新設住宅着工戸数（9月）は285戸となり、前年同月比23.8%減となった。



(3) 消費

- ・ 消費者物価指数（福井市、H22=100）（9月）の総合指数は103.3となり、前年同月比は3.4%の上昇となり15か月連続でプラスとなった。前年同月比を費目別にみると、すべての費目が上昇した。
- ・ 生鮮食品を除く総合指数は102.2となり、前年同月比は2.8%上昇し、15か月連続でプラスとなった。



10大費目指数の動き (H22=100)

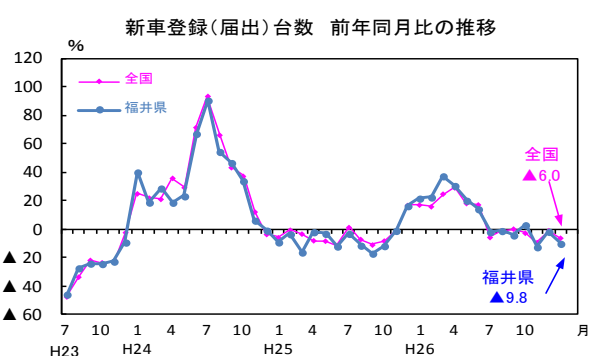
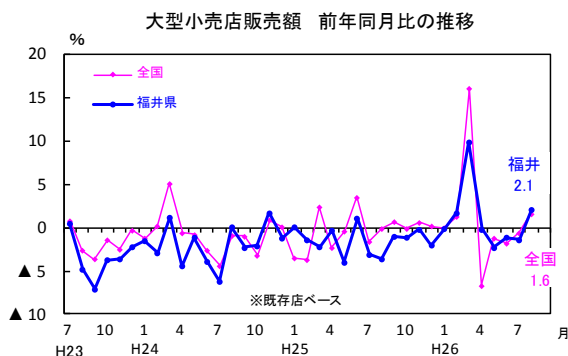
年月	総合	生鮮食品 除く総合	持家の 帰属家賃 除く総合	食料	生 鮮 食 品	住居	光熱・ 水道	家具・ 家事 用品	被服 及び 履物	保健 医療	交通 通信	教育	教養 娯楽	諸雑費
平成26年9月	103.3	102.2	104.2	107.3	132.1	97.9	113.9	91.1	101.7	100.1	107.4	102.7	91.6	110.5
前月比(%)	0.2	▲0.3	0.2	1.2	9.5	0.0	▲0.2	▲2.8	3.3	0.2	▲0.5	0.0	▲1.5	0.5
前年同月比(%)	3.4	2.8	3.8	5.2	15.2	0.5	4.9	0.3	3.1	1.7	2.3	5.3	3.8	5.3

- ・ 大型小売店販売額（8月、速報値）は6,330百万円で、前年同月比は2.1%増（既存店ベース）と5か月ぶりにプラスとなった。

参考：石川県 13,534百万円（前年同月比2.0%増（既存店ベース））、富山県 10,740百万円（同1.3%増）

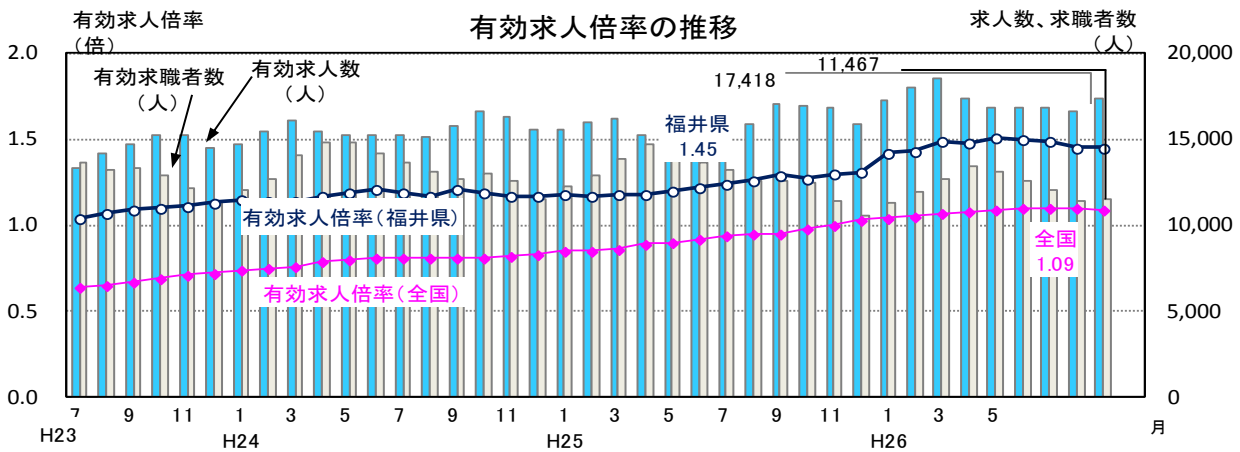
資料：中部経済産業局「管内大型小売店販売概況（平成26年8月速報）」

- ・ 新車登録（届出）台数（9月）は4,017台で、前年同月比は1.4%減と2か月連続でマイナスとなった。
〔内訳 普通車2,181台（前年同月比5.1%減）、軽自動車1,836台（同3.5%増）〕

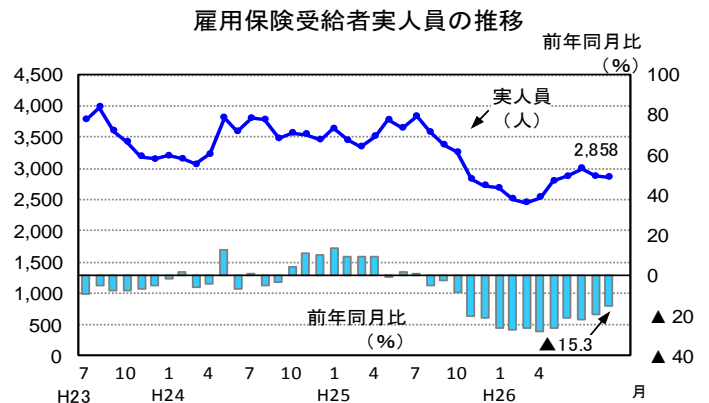
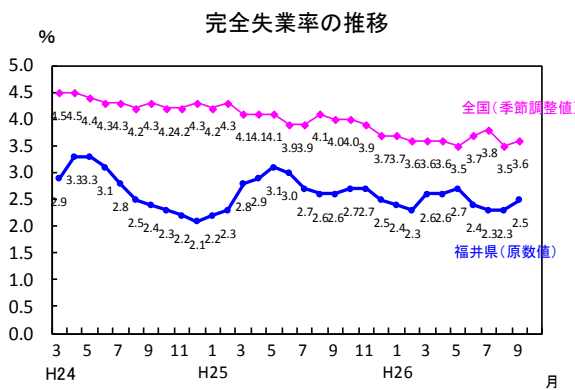


(4) 労働

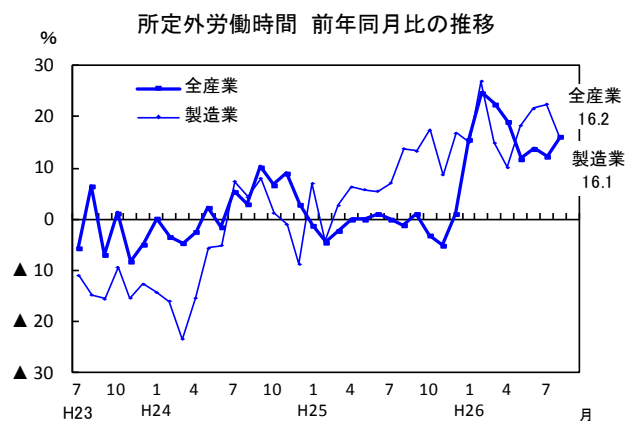
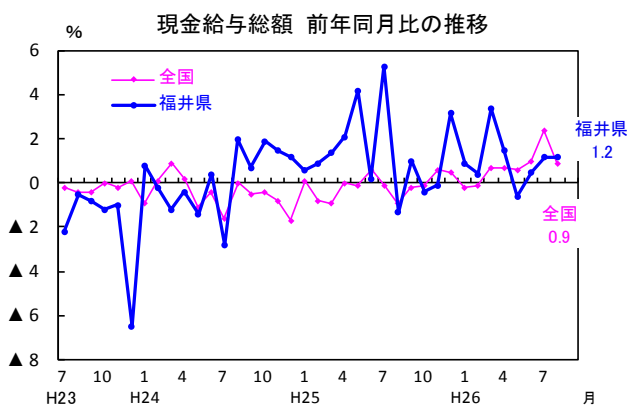
- 有効求人倍率（季節調整値、パートを含む）（9月）は1.45倍となり、前月と同水準だった。
- 一方、全国の有効求人倍率（同）は1.09倍で、41か月ぶりに低下した。



- 県内の完全失業率（9月）は2.5%（原数値）で、4か月ぶりに上昇した。
- 雇用保険受給者実人員（9月）は2,858人で、2か月連続で減少した。一方、前年同月比は15.3%減となり、14か月連続でマイナスとなった。



- 現金給与総額（8月）は256,087円で、前年同月比（指数による算出）は1.2%増となり、前月と同水準だった。
- 所定外労働時間（8月）は10.0時間で、前年同月比（同）は16.2%増となり9か月連続で前年を上回った。
- 所定外労働時間（製造業）（8月）は14.4時間で、前年同月比（同）16.1%増となり18か月連続で前年を上回った。
- 常用労働者数（8月）は290,004人で、前年同月比（同）は1.2%減となり14か月連続で前年を下回った。

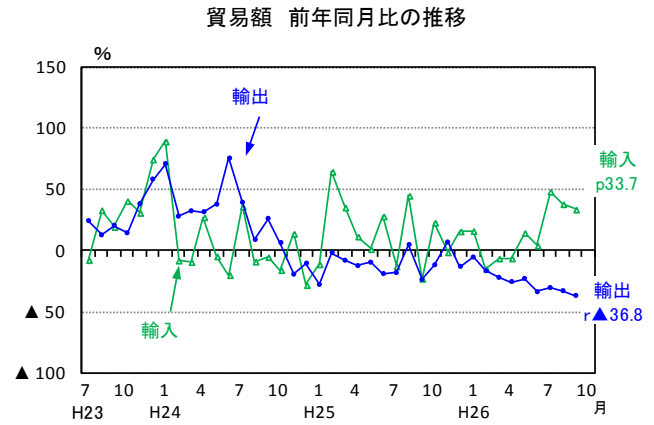
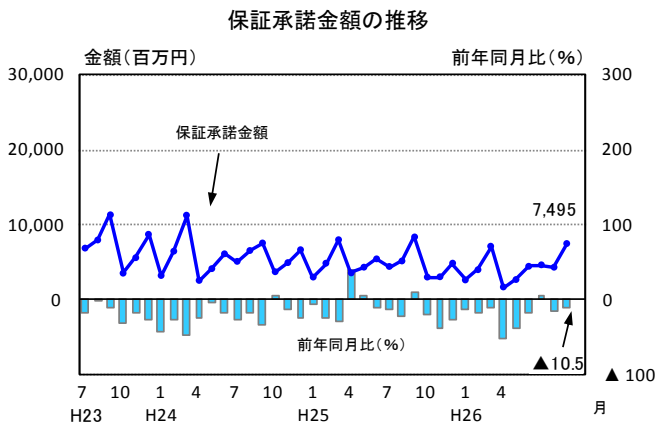


(5) 金融

- ・保証承諾金額（9月）は74億9千5百万円で、前年同月比10.5%減と2か月連続で前年を下回った。
- ・不渡手形金額（9月）は2千百万円で、前年同月比61.1%減と2か月ぶりに前年を下回った。
- ・企業倒産件数（9月）は5件で前月から1件増えたものの、5か月連続で1桁の件数となった。負債総額は11億千百万円で前月比7億5千3百万円増、前年同月比は3億3千8百万円増となった。

(6) 貿易

- ・輸出額（9月、確報値）は61億6百万円で、前年同月比36.8%減と10か月連続で前年を下回った。
- ・輸入額（9月、速報値）は73億9千万円で、前年同月比33.7%増と5か月連続で前年を上回った。
- ・貿易収支（9月、速報値）は12億8千3百万円の貿易赤字で、3か月連続で赤字となった。

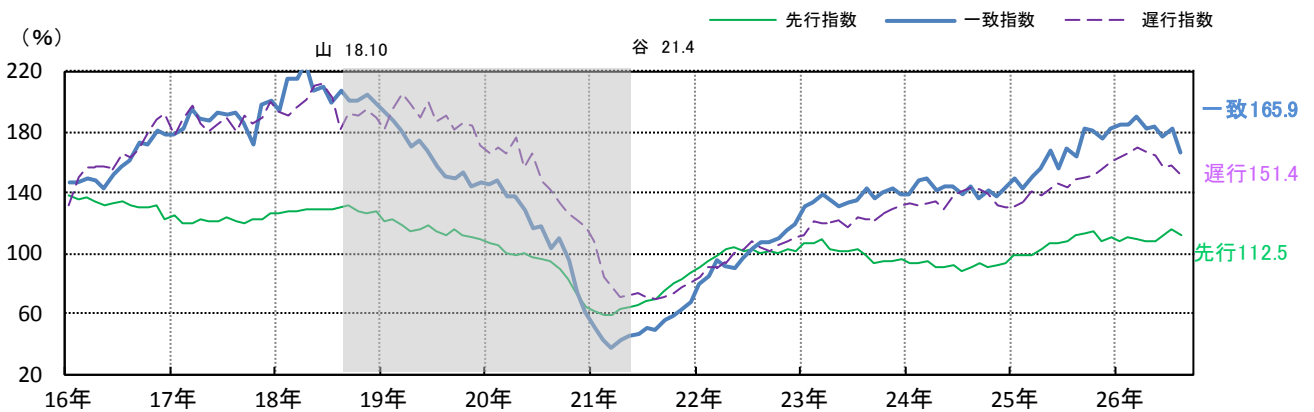


(7) 景気動向（福井県の景気動向指数 平成26年8月分）

基調判断：「景気動向指数（CI 一致指数）は、足踏みを示している。」

景気動向指数（CI H22=100）（8月）： 先行指数 112.5（前月差 2.7ポイント減）
 一致指数 165.9（前月差 16.1ポイント減）
 遅行指数 151.4（前月差 6.2ポイント減）

景気動向指数(CI)の動き (H22=100)



※シャド一部分は景気後退期を示す。

◇全国の景気動向指数（CI H22=100）平成26年8月分（内閣府経済社会総合研究所、平成26年10月20日改訂）

基調判断：「景気動向指数（CI 一致指数）は、下方への局面変化を示している。」

景気動向指数（CI H22=100）（8月）： 先行指数 104.4、一致指数 108.3、遅行指数 117.7

福 井 県 の 主 要 指 標 (つづき)

【貿易】

【景気動向】

年 月	貿易額				景気動向指数 (CI)			日銀短観業況判断	
	輸出		輸入		先行指数 H22=100	一致指数 H22=100	遅行指数 H22=100	良い%-悪い%	
	百万円	前年比 %	百万円	前年比 %				製造業	非製造業
年(年度)	百万円	%	百万円	%	H22=100	H22=100	H22=100		
平成 20	67,895	△ 2.2	95,953	15.6	-	-	-	-	-
21	51,405	△ 24.3	55,943	△ 41.7	-	-	-	-	-
22	82,758	61.0	59,216	5.9	-	-	-	-	-
23	113,421	37.1	73,857	24.7	-	-	-	-	-
24	140,834	24.2	74,544	0.9					
25	124,057	△ 11.9	82,941	11.3					
年月									
23年 1月	6,341	45.0	3,836	△ 2.2	106.5	130.5	112.2		
2	7,867	45.6	4,627	16.3	107.0	133.7	120.6	(3月調査)	
3	9,513	70.9	6,285	37.2	109.0	138.3	119.4	△ 8	△ 20
4	9,124	60.5	5,307	△ 3.3	103.0	135.5	120.1		
5	8,691	31.9	6,132	26.9	101.0	130.3	121.2	(6月調査)	
6	8,641	61.5	6,910	37.1	101.9	133.7	117.0	△ 10	△ 18
7	10,012	24.5	5,522	△ 7.7	102.4	135.0	123.7		
8	9,994	12.8	5,940	33.2	99.0	142.5	122.4	(9月調査)	
9	10,023	20.6	7,585	19.4	93.8	136.8	121.8	△ 16	△ 5
10	10,733	14.5	6,932	40.7	94.8	139.9	125.9		
11	10,941	38.3	6,247	31.0	94.5	142.8	129.2	(12月調査)	
12	11,541	58.5	8,533	74.7	95.6	138.4	131.1	5	△ 5
24年 1月	10,853	71.2	7,267	89.5	93.4	139.1	133.4		
2	10,076	28.1	4,254	△ 8.1	93.1	147.7	131.1	(3月調査)	
3	12,604	32.5	5,701	△ 9.3	94.5	149.1	132.6	△ 13	△ 17
4	12,024	31.8	6,762	27.4	90.7	140.9	134.8		
5	11,982	37.9	5,852	△ 4.6	91.1	143.7	128.8	(6月調査)	
6	15,186	75.7	5,527	△ 20.0	91.8	144.2	137.8	△ 15	△ 16
7	13,967	39.5	7,520	36.2	87.6	139.1	141.2		
8	10,896	9.0	5,413	△ 8.9	90.5	144.7	142.8	(9月調査)	
9	12,662	26.3	7,183	△ 5.3	93.9	135.7	142.6	△ 13	△ 13
10	11,427	6.5	5,828	△ 15.9	90.4	141.6	139.5		
11	8,813	△ 19.4	7,113	13.9	91.5	137.3	131.8	(12月調査)	
12	10,345	△ 10.4	6,126	△ 28.2	94.1	143.5	129.7	△ 26	△ 15
25年 1月	r 7,835	r △ 27.8	r 6,450	r △ 11.2	98.6	149.7	130.3		
2	r 9,903	r △ 1.7	r 7,005	r 64.7	98.1	143.2	133.7	(3月調査)	
3	r 11,594	r △ 8.0	r 7,718	r 35.4	98.2	150.9	141.4	△ 10	△ 10
4	r 10,533	r △ 12.4	r 7,545	r 11.6	103.1	155.3	138.2		
5	r 10,832	r △ 9.6	r 5,920	r 1.2	107.2	168.2	142.3	(6月調査)	
6	r 12,318	r △ 18.9	r 7,083	r 28.2	106.5	155.5	145.6	10	△ 17
7	r 11,437	r △ 18.1	r 6,560	r △ 12.8	108.5	168.6	143.5		
8	r 11,438	r 5.0	r 7,851	r 45.1	112.4	163.3	149.1	(9月調査)	
9	r 9,656	r △ 23.7	r 5,527	r △ 23.1	113.0	182.9	149.8	△ 3	7
10	r 10,088	r △ 11.7	r 7,168	r 23.0	114.9	180.5	151.5		
11	r 9,426	r 6.9	r 7,018	r △ 1.3	108.2	175.6	155.7	(12月調査)	
12	r 8,998	r △ 13.0	r 7,096	r 15.8	110.2	182.0	161.2	6	19
26年 1月	r 7,414	r △ 5.4	r 7,492	r 16.2	108.3	184.8	163.0		
2	r 8,261	r △ 16.6	r 5,954	r △ 15.0	110.4	185.1	165.8	(3月調査)	
3	r 9,039	r △ 22.0	r 7,228	r △ 6.3	108.9	190.5	169.5	16	19
4	r 7,852	r △ 25.5	r 7,069	r △ 6.3	107.7	182.1	167.0		
5	r 8,351	r △ 22.9	r 6,777	r 14.5	107.8	183.4	165.1	(6月調査)	
6	r 8,155	r △ 33.8	r 7,381	r 4.2	111.6	176.5	156.8	8	△ 1
7	r 7,959	r △ 30.4	r 9,733	r 48.4	115.2	182.0	157.6	(9月調査)	
8	r 7,675	r △ 32.9	r 10,841	r 38.1	112.5	165.9	151.4	3	0
9	r 6,106	r △ 36.8	p 7,390	p 33.7					
10									
前月比(%)	r △ 20.4	-	p△ 31.8	-	-	-	-	-	-
前年同月比	r △ 36.8	-	p 33.7	-	-	-	-	-	-
資料出所	財務省「貿易統計」 *敦賀税関支署、敦賀税関支署福井出張所の通関額の合計。内浦港(舞鶴税関支署管内)を除く。 *pは速報値、rは確報値、平成23年以前の数値は確定値。				県政策統計・情報課 「福井県の景気動向指数」 *平成24年1月分より、CI中心の公表形態に変更した。			日本銀行金沢支店	

用語の説明

【生産】

・鉱工業指数

鉱工業の生産活動の水準と動向をみる指標で、生産・出荷・在庫を数量面からとらえ指数化したもの。
なお、月別の数値は季節調整済指数である。

・織物生産

調査範囲：織物生産月報記載の調査品目を生産する事業所のうち従業者10人以上の事業所

【消費】

・家計（福井市勤労者世帯）

平均消費性向（％）＝消費支出÷可処分所得×100

・大型小売店販売額（百貨店およびスーパー）

百貨店およびスーパーとは、従業者50人以上の小売商店であって次に該当するもの。

（1）百貨店：日本標準産業分類の百貨店のうち（2）のスーパーに該当しない商店であって、かつ売場面積が1,500㎡以上の商店。

（2）スーパー：売り場面積が1,500㎡以上で、その50%以上において、セルフサービス方式を採用している商店。

なお、前年同月比は店舗調整後の値（既存店ベース）。店舗調整とは、調査対象商店の定義変更および移動があった場合、前年同月比を調査対象となった商店のみで算出すること。

・新車登録台数：軽自動車を含む自動車の新車販売台数。

【労働】

・労働市場月報 数値は一般職業紹介状況で、新規学卒を除きパートを含む。

有効求人倍率（原数値）＝月間有効求人数÷月間有効求職者数

新規求人倍率（原数値）＝新規求人数÷月間新規求職数

就職率（％）＝就職件数÷新規求職申込件数×100

・福井県労働状況調査

完全失業率（％）（原数値）＝完全失業者数÷労働力人口（就業者と完全失業者の合計）×100

※「3か月後方移動平均」（公表対象の月とその前月、前々月の計3か月の平均値）を使用。

<参考>総務省「労働力調査」における完全失業率の都道府県別結果（モデル推計値）

労働力調査は都道府県別の推計を前提とした標本抽出を行っておらず標本規模も小さいことなどにより、全国結果に比べ結果精度を確保できないことから、都道府県別結果については、平成18年5月より時系列回帰モデルを用いて統計学的処理した「モデル推計値」として平成9年以降の四半期平均および年平均結果が公表されている。詳しくは、総務省統計局ホームページより「都道府県別結果の新たな統計的手法による推計（時系列回帰モデルによる推計）について」を参照されたい。

URL：<http://www.stat.go.jp/data/roudou/pref/pdf/02.pdf>

・毎月勤労統計調査 数値は常用労働者を常時30人以上雇用する第一種事業所のもの。

現金給与総額・総労働時間 … 常用労働者一人平均

【景気動向指数】

景気動向指数は、生産、雇用など様々な経済活動での重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握及び将来予測に資するために作成された統合的な景気指標であり、DI(Diffusion Index)とCI(Composite Index)がある。

DIは、採用系列のうち、3か月前と比較して拡張した系列の割合を示す(DI＝拡張系列数／採用系列数×100(％)) ことにより、景気の広がりを見る指標であるのに対し、CIは各指標の前月比の変化量を合成することにより、景気のテンポ(量感)を測定する指標である。

(注) r＝改訂値 p＝速報値

前月比・前年同月比は、単位未満を端数処理する前の数値で計算している。

(参考)

全国および北陸の経済概況

○全国 【内閣府「月例経済報告」より抜粋】

今 回 (平成26年10月21日)	前 回 (平成26年9月19日)
<p>景気は、このところ弱さがみられるが、緩やかな回復基調が続いている。</p> <p>個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。設備投資は、増加傾向にあるものの、このところ弱い動きもみられる。輸出は、横ばいとなっている。生産は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ減少している。企業収益は、改善に足踏みがみられる。企業の業況判断は、慎重となっているものの、大企業製造業ではやや改善している。雇用情勢は、着実に改善している。消費者物価は、このところ上昇テンポが鈍化している。</p> <p>先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、駆け込み需要の反動の長期化や海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクに留意する必要がある。</p>	<p>景気は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。</p> <p>個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。設備投資は、増加傾向にあるものの、このところ弱い動きもみられる。輸出は、横ばいとなっている。生産は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、弱含んでいる。企業収益は、改善に足踏みがみられる。企業の業況判断は、慎重となっているものの、改善の兆しもみられる。雇用情勢は、着実に改善している。消費者物価は、緩やかに上昇している。</p> <p>先行きについては、当面、一部に弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、駆け込み需要の反動の長期化や海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクに留意する必要がある。</p>

○北陸 【日本銀行金沢支店「北陸の金融経済月報」より抜粋】

今 回 (平成26年10月15日)	前 回 (平成26年9月5日)
<p>北陸の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響を受けつつも、緩やかに回復している。</p> <p>最終需要をみると、個人消費は基調として緩やかに持ち直している。また、設備投資は増加しているほか、公共投資は高水準で推移している。住宅投資は駆け込み需要の反動がみられるものの、下げ止まりつつある。</p> <p>当地製造業の生産は、<u>緩やかに増加している</u>。業種別にみると、化学は増加している。電子部品・デバイスも<u>緩やかに増加している</u>。繊維は横ばいで推移しており、はん用・生産用・業務用機械は、<u>下げ止まっている</u>。金属製品は弱含んでいる。雇用・所得環境は改善している。企業の業況感は底堅く推移している。</p> <p>この間、物価は前年を上回っている。</p> <p>先行きについては、緩やかな回復基調を続け、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響も和らいでいくとみられる。</p> <p>金融面をみると、預金は法人、個人を中心に前年を上回っている。貸出は個人向け、法人向けを中心に前年を上回っている。貸出約定平均金利は低下している。</p>	<p>北陸の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響を受けつつも、緩やかに回復している。</p> <p>最終需要をみると、個人消費は基調として緩やかに持ち直している。また、設備投資は増加しているほか、公共投資は高水準で推移している。住宅投資は駆け込み需要の反動がみられるものの、下げ止まりつつある。</p> <p>当地製造業の生産は、高水準で推移している。業種別にみると、化学は増加している。電子部品・デバイスは持ち直している。繊維は横ばいで推移しており、金属製品は弱含んでいる。はん用・生産用・業務用機械は、高水準ながらも減少している。雇用・所得環境は改善している。</p> <p>この間、物価は前年を上回っている。</p> <p>先行きについては、緩やかな回復基調を続け、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響も次第に和らいでいくとみられる。</p> <p>金融面をみると、預金は法人、個人を中心に前年を上回っている。貸出は個人向け、<u>法人向け</u>を中心に前年を上回っている。貸出約定平均金利は低下している。</p>